



# 自然観察

No.105  
2013.3月

## 目次

・総会議案書案（概要）	2012年度事業報告	2
	2013年度事業計画（案）	4
・2013年総会・講演会・懇親会のお知らせ		5
・2012年度講演会報告		
	洞爺湖有珠火山マイスターと自然観察指導員	6
・海辺で出会う漂着物 1	クジラ・イルカ	10
・第473回 NACS-J 自然観察指導員講習会	北海道開催のご案内	12
・フィールドニュース		13
・ウォッチングレポート		14
・参加者の声		15
・事務局だより・連絡先		16



森の陽ざしをうけ羽を休める雀達(江別市内 3月上旬)

## 1. 観察会実施状況中間報告

### (1) 一般観察会について

2012 年度の観察会は、滝野の集いを除き、53 回開催が予定され、3 回開催の中止を除き現在 (2/17) まで 48 回開催が無事終了しました。

このうち報告書未着および報告書不備の 7 回開催を除く 41 回開催について集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ 616 名 (うち年代記載者 608 名)

参加指導員数 延べ 156 名

年代別参加者数では年代記載者 608 名中 60 代が 290 名とおおよそ半数を占めています。

以下 70 代 120 名、50 代 107 名となっています。

最終集計は 4 月の総会で報告、及び会報 106 号に掲載します。

各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

### (2) 滝野の自然に親しむ集い (第 23 回) について

場所：滝野自然学園・滝野すずらん公園

実施日：8 月 11 日 (土) ～12 日 (日)

参加料：3,700 円 (指導員同額)

参加者：一般 11 名 (子ども 6 名、大人 5 名)・指導員 8 名、計 19 名

## 2. 指導員研修について

### (1) 全道研修会

テーマ：「静狩湿原と北海道南西・南端の植物」

実施日：6 月 9 日 (土)～10 日 (日)

場所：静狩湿原、千軒・網配野、松前半島最南端部・白神岬、折戸海岸・建石浜、土橋自然観察教育林・レクの森

講師・ガイド：山歩青い山脈代表・当会会員 清水和男氏

参加人数：31 名

宿泊：民宿たかお・まるふく旅館

### (2) 地方研修会

①テーマ：「旭川のアイヌ民族の暮らしと自然、見本林の樹木を知り、生態を考える等」

実施日：8 月 25 日 (土) 午後 4 時～9 時

場所：旭川市博物館・神楽外国樹種見本林・突硝山

講師：瀬川拓郎氏 (博物館副館長)

参加人数：7 名

②テーマ：「アイヌ文化～アイヌがもつともアイヌらしかった頃～」

実施日：10 月 28 日 (日) 午前 10 時～15 時

場所：札幌市アイヌ文化交流センターピリカコタン (小金湯温泉)

講師：ヤイユーカーの森運営委員長 計良光範氏

参加者人数：9 名

## 3. 会報発行について

102 号 (6/15)、103 号 (9/15)、104 号 (11/15)

105 号 (13/3/15) をそれぞれ発行しました。

## 4. 組織の状況

2 月末現在で会員数 316 名

## 5. 理事会・部会・事務局関係

### (1) 総会・講演会

総会 4 月 15 日 (日) 午後 1 時半～2 時半

札幌かでの 2.7 720 研修室

講演会 4 月 15 日 (日) 午後 3 時～4 時半

札幌かでの 2.7 720 研修室

演題：「北海道での両生類と爬虫類の観察」

講師：徳田 龍弘氏 (日本爬虫両生類学会会員、日本自然科学写真協力会会員)

### (2) 理事会・各部会・委員会

理事会 4/15、6/5、8/21、10/2、12/21、13/1/22、2/18、4/14 の計 8 回開催

編集部会 5/22、6/5、6/12、8/21、9/4、9/11、10/23、11/6、11/13、13/2/19、3/5、3/12 の計 12 回

### (3) 講演会&忘年会

11 月 17 日 (土)

講演会 午後 3 時～5 時

札幌エルプラザ 環境研修室

「火山マイスターの活動と自然観察指導員」 安藤忍氏

「焼尻島の鳥～標識調査から～」

有田 智彦氏

忘年会 午後 5 時～7 時 「高田屋」

### (4) 北海道自然観察協議会のホームページ

観察会予定、観察会報告など随時更新

HP アドレス <http://www.noc-hokkaido.org/>

### (5) 会員情報配信 (メーリングリスト)

(13/2/18 理事会再開承認)

### 6) 観察会の広報

日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、地元新聞、おしゃべりからず、オントナ、自然ウォッチングセンター「ウォッチングガイド」、北海道環境生活部環境室環境政策課、札幌市環境局環境都市推進部推進課「えこぼろ」、北海道環境サポートセンター・「メールニュース環境★ナビ北海道」

## 6. 他機関との連帯、交流

### (1) 講師派遣

各種組織主催の講師は件を行いました。

### (2) 共催・後援

各種組織団体との共催・後援を行いました。

## 観察会連絡系の皆様へ

日頃皆様には、観察会の企画・運営等、大変お世話になっておりますが、来年度より、「観察会報告」に関して、従来の郵送に加え、メール、FAXによる報告も受け付けたいと考えております。

特にメールによる報告は、諸費用および事務処理の効率化に大きな効果があると思われます。

メールによる報告を了解される方は、会報の裏表紙にあります観察部・山形のメール宛ご一報ください。エクセルによる観察会用の「一般参加者名簿」、「指導員用名簿・報告書」ファイルをお送りいたします。

また、現在「観察会の反省・報告」は390字の体裁となっておりますが、字数にこだわらず出来るだけ簡略にお願いいたします。

皆様のご協力をお願いいたします。

観察部

## 【備品・分野別ガイド】★観察会用物品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んでください。

備品	数量	保管先
実体顕微鏡 ニコンフアー ブルミニ	2台	根岸 徹 札幌市 Tel 011-891-0556
タモ網	27本	同上
大型旗 (120×180)	1枚	畑中 嘉輔 札幌市 Tel 011-581-5439
小型旗 (35×43)	3枚	須田 節 札幌市 Tel 011-752-7217
ポール(折り たたみ式)	3本	同上
トリプル バグビューアー	5台	山形 誠一 札幌市 Tel 011-551-5481
ルーペ	5個	後藤 言行 小樽市 Tel 0134-29-3338
	3個	山形 誠一 札幌市 Tel 011-551-5481

## ☆分野別ガイド

得意分野での疑問や地域情報の問い合わせに回答して下さる方々です。

### 豊平川水系 水生昆虫、魚類

根岸 徹 011-891-0556  
004-0054 札幌市厚別区厚別中央4条5丁目2-27

### 昆虫(甲虫)

堀 繁久 011-571-2146  
005-0832 札幌市南区北の沢2丁目20-18

### 森林 動物(熊)

山本 牧 0166-34-5525  
078-8350 旭川市東光10条8丁目2-6

### 植物全般

与那覇モト子 0133-74-7952  
061-3211 石狩市花川北1条2丁目148  
(分野別ガイドとしてご協力頂ける方は、事務局へ連絡をお願いいたします。)

# 2013 年度事業計画(案)

## 1. 観察会の開催について

- (1)今年度の観察会実施計画は別表「2013 年度自然観察会予定表(指導員用)」の通りです。(観察会日程のほか下見会も掲載しました。)今回掲載以外に企画があれば観察部山形誠一(札幌市中央区)へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。
- (2)各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び 2013 年度観察予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- (3)観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は、観察部会計小川祐美(小樽市)へ送付してください。振り込み用紙を利用する場合は会計(小川)へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。  
口座番号：2770-9-34461  
(通常払込加入者負担の用紙)  
加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料
- (4)各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力

ください。

- (5)観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
- (6)観察部では備品の充実をはかっていきたいと考えています。また現在保管している備品に関しても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。

## 2. 「第 24 回 滝野の自然に親しむ集い」について

日時：8 月予定

滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部の各 1 名選出)を組織して実施予定です。滝野自然学園で開催します。

## 3. 保険について

共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、一泊二日以上は該当しません。

### 【観察会事故緊急連絡】

事務局へ連絡をお願いします。

保険会社(代理店)：アスカ・リスクマネジメント Tel1011-873-2655 日曜、祝日休業 普通傷害保険(エース損害保険株式会社) 死亡保険：500 万円 入院保険金額：5,000 円(180 日以内) 日額 通院保険金額：2,500 円(90 日以内) 日額
--

## 4. 指導員研修について

### (1)全道研修会

日時：6 月 1 日(土)～2 日(日)

場所：新冠町、大樹町、豊頃町

テーマ：「新冠町判官館森林公園、大樹町  
ホロカヤントー湿原・生花苗沼湿原、  
豊頃町長節湖原生花園」

### (2)地方研修会

①旭川市 日時 10 月開催予定

場所・テーマ未定

②札幌市 日時・場所・テーマ未定

106 号(6/15)、107 号(9/15)、108 号(11/15)、  
109 号(14/3/15)の 4 回発行予定

事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の 45 日前とします。

## 6. その他

- ・各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制作りを検討していきたいと思っています。
- ・事業および観察会の予定や実施状況は会報及び北海道自然観察協議会の HP でお知らせします。<http://noc-hokkaido.org/>
- ・会員用メーリングリストについては、会報の掲載に間に合わないお知らせや地域の情報などを、会員の皆様へ情報配信をします。

☆注意 このメールは、事務局発信専用で、このメールに対する返信は事務局のみに配信されます。リストアドレスへ発信したメールは、サーバーにより消去されてどこへも届きません。

#### <講師派遣依頼について>

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

#### <総会・講演会>

日時：2014年4月13日（日）（第3日曜日）  
場所：札幌エルプラザ環境プラザ研修室  
1.2(予定)

#### <理事会>

6月4日、8月、10月、14年1月、2月、4月

#### <講演会&忘年会>

日時：11月30日（土）  
講演会 午後3時～5時  
忘年会 午後5時～7時  
場所：札幌エルプラザ環境プラザ研修室  
忘年会会場(予定)

#### <第473回NACS-J自然観察指導員講習会北海道開催>

主催：財団法人 日本自然保護協会  
共催：北海道自然観察協議会  
期日：6月15日(土)～16日(日)  
場所：恵庭市青少年研修センター  
恵庭市駒場町 3-3-16  
Tel0123-33-2760 FAX0123-33-2780  
定員：40人

受講料：23,000円(一般)、18,000円(会員)  
(受講料、初年度登録料、テキスト代、保険料、施設使用料、宿泊・昼食費等)  
問い合わせ先：北海道自然観察協議会  
Fax011-387-4960

Email [y-hiko@rapid.ocn.ne.jp](mailto:y-hiko@rapid.ocn.ne.jp)

#### <救急救命講習会>

責任ある観察指導員としての確かな判断と対応が取れるように救急救命講習会を実施します。

日時：2013年11月中旬予定

場所：かでの2・7(予定)

講師：札幌市防災協会、日本赤十字社北海道支部

会員以外からも受講者を募ります。事務局へお問い合わせください。

#### <個人情報保護法について>

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報、観察会活動の目的以外には利用いたしません。また保有する個人データは適正に取り扱い、第三者に提供することはありません。会員名簿は外部に流出しないようにお願いします。

#### <観察会カードについて>

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」の無料配布(送料発注者負担)を継続中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

## 2013年 総会・講演会・懇親会お知らせ

日時：2013年4月14日(日)

場所：札幌エルプラザ環境研修室1・2(札幌市中央区北8西3)

Tel 011-728-1222)

《総会》：午後1時～2時半(受付12時半～) (1) 2012年度事業報告 (2) 2012年度決算報告・監査報告 (3) 2013年度事業計画案 (4) 2013年度予算案 (5) その他

《講演会》 午後3時～4時半

演題：『演題：猛禽類についてーハチクマを中心としてー』

講師：自然ウオッチングセンター代表 島田明英氏

《懇親会》午後5～7時 会費3,500円

※出席・参加希望者は、4月12日まで事務局・安田までご連絡ください。

Tel/Fax0133-74-6198

Email <mailto:h.yasuda1007@gaea.ocn.ne.jp>

## 洞爺湖有珠火山マイスターと自然観察指導員

研修部・副部長 安藤 忍 (伊達市)

私は自然観察指導員(以下 指導員)に登録されて13年にもなりますが、自分が企画し実行した経験は僅かに2回です。11月号の苫小牧市・谷口勇五郎さんが指摘した“会費会員”の部類です。花や虫の名前を覚えるのが苦手で、動植物を目の前にすると今でも劣等感に襲われて腰を引くようです。

幸いなことに、地域での自然系団体「森と水と人ネットワーク」(以下 森ネット)から誘われ加わったこと、また、2008年に「洞爺湖有珠火山マイスター」(以下 火山マイスター)の認定を受けたことで好奇心が刺激され、後ろから付いていく「熱意と行動力」を維持しているように思います。

2012年11月17日(於:札幌エルプラザ)、「火山マイスターと自然観察指導員」(50分)と題し上記の私の苦悩を含めお話ししたことを縮小・加筆して掲載させていただきました。大いに参考になるとと思いますので、ご一読願いたいと思います。

### 1. 様々な自然破壊が進行している



04年5月 自然観察協議会・全道研修会  
洞爺湖中島観察会 アカエゾマツの巨木



04年9月 巨木の倒壊  
原因究明の調査を進める

上の写真は洞爺湖中島のご神木・アカエゾマツが、04年の台風18号によって倒壊した様子です。左側が倒壊前4か月の時で、全道研修会で撮影しました。貴重です。

私たちは直ちに原因究明を行い、単なる「エゾシカの踏み荒らし説」ではなく、「傾斜地、火山灰地、腐朽菌による病気と350年という老木、さらに、ビル風的な突風、これらが複合し、エゾシカによる踏み荒らしも加わった倒壊」説を取り、管理上の手落ちもあると結論づけました。

右の写真は04年~08年まで続けられた伊達市の水源地となる“東山”の大量伐採現場です。大衆週刊誌にも掲載されました。

私有地であることから止めることが出来



私有地 水源地 伐採は瞬時 再生は長期

ませんでした。

爆弾低気圧・ゲリラ豪雨・竜巻による自然破壊、そして、歯止めのきかない人為的自然破壊が進行している、これが自然界をめぐる現状だと捉えています。

## 2. 指導員の孤独を支えるもの

登録されて13年にもなる私を支えたものは「調査活動」でした。自然界に身を置くのが大好きで、「農業と自然保護」「20坪の庭の動植物」「長流川河口～砂州の形成と海浜植物の侵入」「伊達市の百年の樹と街路樹」「里やまの自然」等々、いわば手当たり次第の“広く浅い観察記録”をとりながら、辛うじて、自然保護の

理念を保っていたように思います。そして「指導員の鋭い眼」が、信頼性・信憑性を裏打ちし、時には、学際的な分野の新しい発見をもたらしました。

08年の火山マイスター認定後、この調査活動が「動植物」から、有珠火山、洞爺カルデラ、熱源・温泉・・・と広がっていきます。

そして、「カラス」を追跡しながら「カラスは有珠山噴火を教えてくれるか」にはまり込み、やがて、昭和神山の前兆地震開始直後に、三松正夫が有珠山の麓に現れた「妖雲」をスケッチしていたことを発見します（上掲の図 一部加筆）。

地下破壊と動物の行動という学際的な分野を補う存在としての自分を発見したのでした。

## 3. 講師活動が自分を育てる

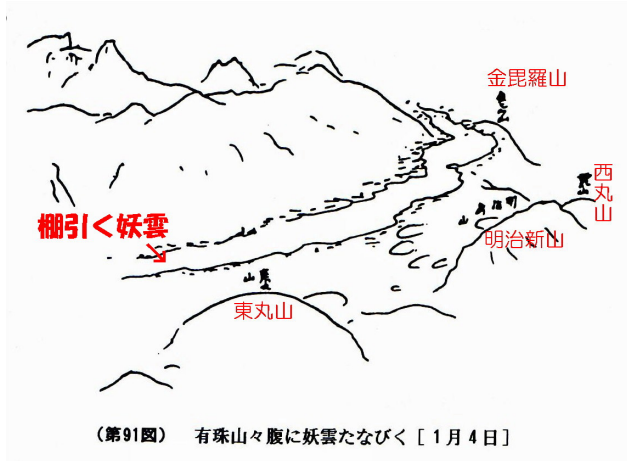
2008年10月、胆振総合振興局が「洞爺湖有珠火山マイスター運営委員会」を立ち上げ、そこが認定する「火山マイスター」に合格しました（持ち時間30分 有珠山銀沼火口での現地審査と面接による口頭試問）。早速、依頼に基づく講師活動が始まりました（ボランティア）。

2011年4月、個々バラバラであったマイスターを組織し「火山マイスターネットワーク」（以下ネットワーク）を旗揚げし主体性を確立しました（現在23名の会員）。

2012年6月には、「フラワーソン」に参加し植生の回復という理念を浸透させます。また、9月の研修活動の中で、1000万年前の「埋もれ木」を発見し、火山マイスターの面目を発揮します。

実質13人の火山マイスターが、「ボランティアと有料」を柔軟に組み合わせ、小・中・高・教師、一般市民、JICA関係外国人を案内しました（合計1100人 延べ54回 一回の講師時間平均193分）。

火山マイスターは、目の前にある噴火の景観や火山遺構をもとに、小・中・高・教師・一般市民に応じた講師内容・話術によってコース内を導いてゆきます。時には、道すがらの動植物に目を向けさせ、時には人々の歴史・文化を語らなければなりません。いわば、大地に育まれたすべてを語る必要があるのです。好むと好まざるとに関わらず「学びと伝える実践者」になるのです。



#### 4. 「火山マイスター」と「指導員」の類似点と相違点

右の表は、「指導員」と「火山マイスター」の比較表です。

##### (1) 類似点

認定組織は異なりませんが現場での審査会が行われます。火山マイスターの審査員は研究者を含めて5人があたります。2012年の合格者は6名中2名でした。

また、行事、活動地域、コース、保険等も類似点があり、特に、リスク・マネジメントに対する方策も、火山マイスターの総意に基づいて設定しています。

組織名	北海道自然観察協議会	洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク
認定組織	環境 NGO 日本自然保護協会	行政 胆振総合振興局・地域振興課「火山マイスター運営委員会」
目的	自然を守り、より良い自然の姿を子孫に残す	噴火の記録・体験・減災の知識を伝える、噴火と噴火の間は地域振興に貢献する
モットー	自然に親しみ、学ぶ	学びと伝えの実践者
行事	観察会、研修、実践交流、機関誌発行・ホームページ	講師活動、研修、実践交流、ホームページ・メーリングリストによる情報伝達
活動地域	全道	洞爺湖有珠山ジオパーク内
活動の主体性	会員の自主性に基づいた観察会の計画と参加案内	学校・民間団体・旅行者・インターネットによる依頼に基づく 2012年から「火山マイスターネットワーク」主催による観察会開催
コース設定	会員による設定	「火山マイスターネットワーク」が定めたコースと依頼者による協議
講師料	なし	有料（ジオパーク内の小・中学生は無料、行政が予算化している場合は受け取る）※料金の10%をネットワークに上納
保険	参加者の保険料徴収	参加者が加入しているかを確認、未加入の場合は徴収

##### (2) 相違点

認定組織がめざす目的が異なっていますので相違点が多くあるのが当然です。実際の場面では、指導員は「自然に親しみ、自然から学ぶ」ことをモットーに、大自然の営みを理解し愛おしさを感じさせていきますが、防災を目的とする火山マイスターは、「知識を伝えねばならない」ことから、「自然と親しむ」余裕が少なく、結果として“知識伝達”に陥る傾向があります。好奇心をくすぐるにはどうするか、火山マイスターの課題となっています。

例えば、「温暖化や自然破壊」に対し、指導員は目の前の現実から敏感・機敏に反応できますが、火山マイスターは、例えば 3.11 東日本大震災（以下「3.11」）に対して、目の前の火山からどのような切り口を見出して展開するか、火山マイスターネットワーク全体の課題となるわけです。

また、「有料」を前提にした火山マイスターの講師活動は「責任」が伴いますので（ツアー会社は、終了後、参加者のアンケートで良し悪しを集約する）、「有料に相応しい楽しみ方」を試行錯誤せざるを得ないのです。ですから、ボランティアの講師活動の機会をとらえ、自主的に講師として参加し、場数を経ながら力量を向上させなければなりません。

#### 5. 火山マイスターの講師活動の実際

今私は、海岸、そして、二級河川に隣接している場所に築 26 年の住宅で生活しています。地震・津波防災、洪水防災、噴火防災の三つの課題を抱え、さらに、火山マイスターとして地域住民の課題を実践する立場です。

昨年「3.11」の避難行動が問われ、2012年10月に行われた伊達市・防災訓練でもその行動が問われ、ゲリラ豪雨・爆弾低気圧での洪水も心配されます。

特に津波問題では、私の家から 200m 先の砂浜に地震発生 72 分後に 6.6m の津波が押し寄せ、海拔 1.3m の我が家を呑みこむと通告されました。7m の防波堤をつくり自然の驚異に立ち向かおうとするのでしょうか。

そのことよりも、住民自身が日本列島の現実を学習すること、最も困難な「冬の避難訓練」を実施すること、そのことを実行しながら住民自身が覚悟を決め、行政と話し合



いながら方策を構築していくべきだと提案しています。2012年11月13日、中南米6か国12名をガイドした時のことです（JICAによる依頼 持ち時間150分 コース距離1.8<sup>km</sup> 通訳付き）。

その5日前の11月8日、グアテマラでM7の断層地震が発生し、太平洋側のチャペリコ町で48名が死亡、150人が負傷したとの情報をインターネットで知りました（上写真 右から二番目の青年の母国）。そして4つのプレートが中南米にも押し寄せていて日本列島と同じであることを知り、ガイドポイント、ガイド内容を修正したのです。



直ちに、中南米の白地図を用意し、国別主要活火山▲を印し暗記しました。覚えるのが苦手な私には大変でした。

当日、指で白地図の国を指して「パナマ」と言うと、写真上の右の女性が「イエス！」と挙手したのです。このことがきっかけとなり、中南米のプレート、火山、地震・津波のメカニズムが、白地図を中心に彼らのラテン語で飛び交い、参加していたホンジュラスの研究者が解説したのでした。

私は「3.11」の体験談、東海村の友人の話、仙台・亶理町の見てきた話をしながら、日本も防災対策を迫られている点では同じだと呼びかけました。

チームの代表から「私たちの苦しみを共有していただきありがとうございます」というお礼の言葉が述べられ、目であらざる12名に感動したものでした。

理詰めによる解説だけではなく、感性を揺り動かすガイドの在り方、指導員の立場に照らしてみると、「自然を守り、より良い自然の姿を子孫に残す」気迫とでも言いましょうか、観察会の中にも、相手の感性を揺り動かす気迫に満ちた「ストーリー（物語）」が必要ではないかと思いました。

## 6. おわりに～「火山マイスター」と「指導員」の関連

指導員の皆さんは、地域や職場で自然観察協議会以外の団体に所属しているのではないかと思います。今回の私の報告は、他団体として「火山マイスターネットワーク」が例でした。

火山マイスターの活動の中に、指導員の理念が貫かれていることを読み取っていただければ幸いに思います。

また、火山マイスターの講師活動はトップダウン的な傾向があり、否応なく実践することで逆に力量を高めているとお感じになったと思います。つまり、協議会以外の団体で、例えば、旅行・登山・花見・観楓会、その他のレクであっても、目的・意識的に、くどいと嫌がれない程度の解説を試みながら力量を高めることが出来るということです。

得意分野があれば「一点突破」し、調査活動を続けながら幅を広めて「全面展開」し、指導員の話聞くことが楽しみになるような観察会を実行してはいかがでしょうかと思います。

極端な言い方をすれば、私の場合は、「最も関心の高い花・虫の分野」と「最も関心の低い大地の変化の分野」の両極端を、目の前の動植物や、目の前の色とりどりの石・地層・景観を切り口として、惑星地球・日本列島・北海道の花々や、人々の歴史・文化を結びつけ、明るく親しみを込めて語ることに努力しているということになります。

「3.11」は、日本人の価値観を変えたと言われますが、私たち指導員の意識にも何かの変化があるべきかと思っています。2013年を、北海道自然観察協議会が意気高くスタートすることを願い報告を終わりたいと思います。

# 海辺で出会う漂着物 1 クジラ・イルカ

志賀健司 (いしかり砂丘の風資料館 学芸員)

今回から4回にわたって、いしかり砂丘の風資料館の学芸員の志賀 健司さんに『海辺で出会う漂着物』と題した連載を執筆していただくことになりました。第1回目の今回は、クジラ・イルカについてです。  
(編集部)

## 海辺は、海と陸との境界線

海辺は、海と陸との境界線。海から、陸から、川から、空から、いろいろなものが集まってきました。中でも海から来るものは、波打ち際の見慣れた貝殻から、海外から流れてくる外国のボトル、暗黒の深海から打ち上げられた奇妙な生物まで様々で、陸上で生活する我々にとっては未知の世界を垣間見せてくれます。これから4回、海辺で出会う海の世界からやってきた漂着物について、紹介します。

冬。シベリアに溜まった寒気が北西風となり、日本海側は大荒れの日が続きます。冬から春にかけて砂浜を歩くと、日常は目にすることのないようなものが打ち上がっていることが、よくあります。向こうのほうにカラスやカモメなど、鳥が集まっているのが見えたら、そこには何かがあるサイン。足を速めて近づいていくと…。だいたい、死体があります。イルカ・クジラなどの鯨類か、アザラシやトドなどの鰭脚類(ききゃくるい)です。

## 大型海生動物のストランディング(座礁)

このような大型海生動物(特に哺乳類)が漂着する現象を、ストランディング(stranding: 座礁)と呼びます。生きてまま砂浜に乗り上げる(文字通りの座礁)例や漁網で混獲される例なども含みますが、圧倒的に多いのはいろいろな原因で死んだ個体が漂着する例です。砂丘の風資料館のすぐ前の石狩浜でも、年に何回もストランディングが発見されます。これまでに確認されたのは、鯨類では、ネズミイルカ、イシイルカ、カマイルカ、オウギハクジラ、ゴンドウクジラの仲間(種は不明)の5種。少し離れた厚田区まで含めると、ミンククジラ(幼獣)、ツチクジラ(幼獣)の漂着が発見されたこともあります。鰭脚類のほうは、

ゴマフアザラシ、トド、オットセイの3種がこれまでに確認されています(鰭脚類は生きている姿が見られることもあります)。

北海道での鯨類ストランディングは、2007～2011年までの5年間で、18種、344頭が報告されています(ストランディングネットワーク北海道、2012)。ただしこれはあくまでも誰かに発見されて報告が届いた数です。実際には、もっと多くの鯨類の死体が漂着し、広大な北海道の海辺で人知れず埋もれていることでしょう。



オウギハクジラのストランディング  
(体長 4.4m、2011年石狩市厚田区)

## 寄り鯨

「鯨一頭、七浦潤う」。昔からこう言われてきました。ストランディングはもちろん昔からあった現象で、「寄り鯨」と呼ばれていました。日本ではクジラが獲れると肉や脂はもちろん、骨、皮、ヒゲまで、残すところなく活用しました。海辺の集落に寄り鯨があると、住人総出で解体して売り捌きました。その儲けはかなりの高額になり、クジラ1頭のストランディングで周辺の集落まで大金が入る、ということです。寄り鯨のおかげで学校を1つ建てることができた、という話もありま

す。

本州では、古くから捕鯨を行っていたり、寄り鯨がしばしばある地域には、そんなクジラたちを供養したり、大漁を祈願するための碑「鯨塚」が建っていることがあります。同様のものは北海道でも見られます。北海道開拓記念館の水島未記学芸員によると、道南の日本海側に多く見られ、現存するもので約 10ヶ所、すでに残っていないものも含めると 20ヶ所ほどあったことがわかっています。石碑や供養塔が中心の本州に対して、北海道では肋骨や下顎などのクジラの骨が、まるで墓標のように建てられていたり寺社に祀られているケースがほとんどのため「鯨骨製記念物」と呼ばれています。それほどかつてはストランディングが人々にとって重要な意味を持っていたのでしょう。



港を見下ろす高台に立つ鯨骨製記念物  
(瀬棚町虻羅、撮影：水島未記さん)

しかし現代、寄り鯨には食べたり売り捌いたりする代わりに、別の意義が新たに認められるようになってきました。

### ストランディング個体は学術的に貴重な試料・標本

シカやクマなど、陸上の大型動物を調査するとき、研究者たちは様々な方法を用います。野外での観察、糞の調査、捕獲して飼育…。その結果、生態や体の造りなど、いろいろなことがわかります。では海生哺乳類、特に鯨類を研究するときには、どうしたらいいでしょう？ 観察…。海面ならともかく、潜っている間の行動は見えません。糞…。排泄物はすぐに海中に紛れてしまいます。捕獲…。イルカ程度の大きさならともかく、5mや10mのクジラなど、生け捕りも飼育もできません。じゃあ、どうやって研究する？ そこで役立つ

のが、ストランディングです。



### 漂着個体の骨格標本を作る砂丘の風資料館のボランティア

2007年、北海道のあちこちの海岸で発生する鯨類ストランディングを、研究に活用するネットワークが組織されました。北海道大学水産科学院の松石隆准教授の研究室が中心となる「ストランディングネットワーク北海道(SNH)」です。全道各地から発見情報をリアルタイムで集約し、道内外の研究機関と協力して死体の回収・処理、試料分配を行うのが目的。ストランディング発見の情報があると、ただちに研究者が駆けつけ、全身回収、それができなければ現地での解剖や試料採取を行ないます。

外傷や臓器の状態から死因を推定し、胃の内容物から食性を調べ、化学汚染や寄生虫を探し、DNA から血縁関係や地理的分布を読み取ります。残った骨は博物館の標本となります。以前は多くの場合は廃棄物として埋設処理や焼却処理されてきたストランディング個体を、学術的に貴重な試料・標本として、研究・教育に活用することができるようになったのです。

### 絶対食べてはいけないクジラ・イルカの漂着物

とは言っても、実は現在でも、クジラ・イルカが漂着すると肉を採って食べてしまう人はいるようです。海辺でクジラを見つけたけどすでに包丁で四角く切り取られた跡があった、ということは、よくあります。



っ漂着したイシイルカを調査するSNH  
(2003年石狩浜)

クジラを食べる文化は否定しませんが、これらは野生動物の死体。死因も不明です。人にも感染するウイルスや寄生虫を持っていたり、水銀の濃集など化学汚染の心配もあります。道端でニワトリが死んでるのを見つけたら、持って帰って食べますか？絶対にやめておいたほうがいいですよ。

自然を守る力になろう!!

## 第473回 NACS-j 自然観察指導員講習会 北海道開催のご案内

NACS-J 自然観察指導員は、身近な自然を守る自然保護教育(環境教育)を行うボランティアリーダーです。講習会では、自然の見方、自然保護の考え方、自然観察の手法を学び、自然を見る目を養います。

私たちは、'自然かんさつからはじまる自然保護'を合い言葉に、身近な自然をフィールドにして、自然の楽しさ、不思議さ、感動を伝え、自然とのつき合い方を考える自然観察会を広める活動を30年間続けています。

日本の自然を守り、もっとよくするために、あなたも全国の仲間と一緒にはじめませんか。

☆主催:公益財団法人 日本自然保護協会 ☆共催:北海道自然観察協議会

☆期日:6月15日(土)午前9時半~16日(日)午後4時半

☆会場:恵庭市青少年研修センター 恵庭市駒場町3-3-16

Tel0123-33-2766 FAX0123-33-2780

☆定員:40人(申込者多数の場合は抽選、抽選結果に関わらず申込者に通知)

☆参加資格:・満18歳以上で、期間中の全ての講座及び実習を受講できる方、  
・自然保護教育の必要性を認識し、自然観察活動の推進に意欲があり、できるところから実践の第1歩を踏み出す意欲のある方、また現在活動されている方

☆受講料:23,000円(一般)、18,000円(会員)

(受講料、初年度登録料、NACS-J個人会費、テキスト代、保険料、施設使用料、宿泊・食費(1泊3食含む))

☆申し込み期間:5月6日(月)~5月20日(月)(必着)

☆申し込み・問い合わせ先:北海道自然観察協議会(〒069-0854 江別市大麻中町21-1 横山方)

☆Fax:011-387-4960

☆Email E-mail:y-hiko@rapid.ocn.ne.jp



## エゾシカによる植物の採食実態調査

アポイ岳ファンクラブは、昨年より北海道酪農学園大学とアポイ岳において「エゾシカによる植物の採食実態調査」をおこなっています。

アポイ岳でもエゾシカの食害の問題は深刻で、特にアポイ岳山ろくを通るアポイ山道（1799年開削）は近年の山道ブームで訪



シカ柵設置作業の様子

れる人も多くなっているのですが、ここ10数年の間にササも無くなるほどの食害により、一部山道が崩壊しつつあります。ここにある植物はシカの食べないハンゴンソウ、ミミコウモリ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、オオサクラソウなどだけになり、稚樹もほとんど枯れ、山道自体も不明瞭に

アポイ岳ファンクラブ 田中まさひとなっています。その被害は、どんどん上へ上へと広がり、アポイ岳の高山植物群落への影響も見られるようになったことから調査を行うことになりました。

調査は酪農学園大学修士1年の井坂氏を中心に数名の学生がアポイに登り、アポイ岳ファンクラブが補助金などを利用して設置した2m×2mの柵6基と1m×1mの簡易柵44基を使い、シカが採食できない柵内とシカが自由に採食できる柵外とで、植生の経年変化を長期的にモニタリングして比較することにより、シカによる採食の影響を調べるものです。大変地道で時間のかかる調査ではありますが、ファンクラブからも時々同行し協力しています。

今年は今のところ、昨年に比べ被害が少ないようです。その要因は様似町内で有害駆除などにより、千数百頭が処理されたことかも知れませんが、これからまだ調査を続けなければ、その答えは出ません。

地球温暖化の影響と思われる気象変化によって、減り続けるアポイ岳の高山植物。同じく地球温暖化が一つの要因として増え続けるエゾシカ。ダブルパンチを受けるアポイ岳の高山植物たち・・・耐えぬくことが出来るのだろうか、頭の痛い日々が続きます。

## 伝えたいこと

指導員の資格を取得してから一年、今年は江別市私立幼稚園教諭研修会に講師として初めて伝える側に立ちました。

私自身は自然が好きで、特に樹木が好きです。森を歩くときも、娘達を幼稚園へと

江別市 佐々木 裕子  
送り迎えするその道すがら、目に入る樹木は美しく見え、癒され、楽しませてくれる友人のような存在でした。そんな風に感じることをただ楽しんでいたのが、多くの人に案内をすることになり、何を話せばよ

いのか戸惑いました。

観察会ではビンゴカードを使用することになっていましたので、見られることの出来る植物や昆虫、鳥の鳴き声などを事前に予習しておこうと下見に通いました。暑い夏の頃でした。日向から遊歩道に入ると森のひんやりとした涼しさに救われます。斜面を下り、沢を越えてまた登ると肌を感じられた湿り気は少なくなり、頭上を覆っている樹冠が開いている箇所からは、スポットライトのように日光が眩しく差し込んでいました。目を閉じれば鳥の鳴き声や葉擦れの音、車の音や開拓の村から人の声も聞こえます。そうして木々の匂いのする風がとても気持ちよく吹いてきてくれました。

葉も形は皆違って可愛らしいし、目の前を横断していく虫の行く先も気になります。

想像すれば楽しく、改めて知れば驚いたり新鮮な感動があります。下見で歩き回って帰れば子供たちが帰ってきて世話を追われます。けれどこのひと時に自分の周りにある世界はとても美しく、存分にリフレッシュできるものでした。

指導員として、苦手な分野の知識は学びを深めていかなければならないと実感しましたが、それとあわせて、深くて広い、清々しくて美しい自然に親しむ楽しさや五感を呼び覚まされる新鮮さも、共有しながら伝えていきたいなあと感じた夏でした。

## どこにでもあるような自然を楽しんで

札幌市南区 井上淑美

保育士をしていると、自然とのかかわりを通してこども達が成長していく様子がよくわかります。春、初めてのお散歩。

ふいに泣いて立ちすくむ子がいます。アリが恐ろしくて歩けないのです。草花に触るのを嫌がる子、風に舞う木の葉におびえる子もいます。そんな子供たちも数か月後にはミミズを見つけて大喜びしたり、砂場道具でアリ集めをしたりするのです。園庭でカマキリを見つけた時はひと騒動でした。

父兄の方が「北海道にカマキリはいない」とおっしゃってみんなびっくり！おかげで

子ども達は図鑑を見ることを学び、また一つ自然とのかかわり方を知りました。

子供はもともと、自然が好きです。小枝もおち葉も石ころも、子供たちには宝物です。

虫や草花を嫌がるとすれば、それは多分周りのおとなの影響です。だから私たちもたくましくなりました。得体のしれない虫がいても恐がったりしません。やさしく外へ逃がしてあげます。小さな虫に友達を、石ころに恐竜の卵を見い出せる子供の目を持ちたいと願いつつ、子供たちと共に身近な自然を楽しんでいる毎日です。

# ウオッチングレポート



札幌市北区 「北大構内」 2013/1/11

天候 晴れ

### 親子で楽しむ雪の観察会

気温-4℃の晴天の下、北海道大学クラーク会館に集合し、中央ローン広場の雪原

にて観察会を行った。前半1時間は科学的な積雪観察について、後半1時間は五感で楽しみながら積雪を体験する内容であった。

断面観察用ピットを掘り、温度計を用いて気温や雪温を測定して積雪の断熱性について学び、インク法やブラシ法を用いて層構造を観察し、空き缶と電子天秤を用いて密度を測定するなど、積雪について科学的に観察した。

後半は、測深棒で多地点の積雪深を測り、最深の場所を探すゲームを行い、初めに観察した場所の 56cm をはるかに上回る 73cm という場所を発見し、積雪深のばらつきについて学んだ。

次に、目隠しをして雪上歩行競争を行ったり、雪の中にみかんを埋めて宝探しゲームをしたり、足や手で雪を体感した。最後に、接写装置を使って積雪中の雪結晶の写真撮影を行った。

厳しい寒さの中であったが、科学的な視点から雪を観察する方法を学ぶとともに、身体を動かしながら雪を感覚で観察することができ、参加者は普段できない体験ができたようである。

山田 高嗣

## 苫小牧市 「北大研究林」 2013/1/13

天候 晴れ 掲載紙 道新・読売

### 野鳥・冬芽・動物の足跡の観察

一週間ぐらい厳しい寒さが続き、前日 5cm ぐらい降雪がありましたが、当日は寒さも緩み、風もなく、晴天でした。

並んでいるハルニレとヤチダモの樹形や冬芽の違いから始まり、ホオノキの冬芽の出来方、オニグルミやケヤマハンノキの冬芽。キノコの生態系での役割、地衣類につ

いて。マツ属の葉の数、トウヒ属とモミ属の違いを観察。

ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、クマゲラなども見られました。

動物の足跡の特徴の解説のあと、エゾシカとユキウサギの足跡が観察できました。

谷口 勇五郎



## 参加者の声



### 北大構内 札幌雪・氷観察会に参加して

札幌市清田区 松下 和香

わたしはこの前に、札幌雪・氷観察会に参加しました。始めは雪の結晶の種類を調べました。この日は「しまり雪」でした。とてもちぢれている感じでした。10倍のレンズの方が、結晶が大きく見やすかったです。そして、前の日にふった雪をほり返して雪のつぶをくらべました。見たら、上の方の雪のしまり雪は、雪のつぶが小さかったです。ぎゃくに、下の方の雪のしまり雪はつぶつぶが大きかったです。わたしは同

じつぶかとずーと思っていたのでびっくりしました。新しい発見ができてよかったです。次には、ほった雪の横面をブラシでこすって見ると横じまができていました。これを「これを積雪のそう」というそうです。これも初めて聞きました。あとはみかん探しや目をかくして遊んだり一番どこの雪が深いか調べました。この日の最高は 72cm でした。本当に楽しかったです。また参加したいです。(小学5年生)

## 北大研究林の観察会に参加して

苫小牧市 吉田 京子

私は研究林が大好きです。我が町の画家「鹿毛先生」の絵は、その魅力を余すところなく伝えております。

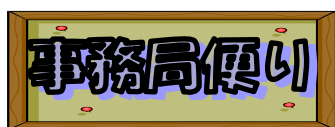
ハリギリの刺に輝く光、ハルニレの裸木はビーナスのよう、キハダのコルクの幹に触れ内皮は正露丸となり、あの鮮やかな黄は染色に、実は香辛料に使うと、リーダーのお話は、淀みなく続きました。

またこの厳しさを生き抜く冬芽の知恵を知り、今「エコ」と騒いでいる私共が恥ずかしいほどでした。

この日は、連日より少し暖かいせいとかマゲラ(声のみ)、カケス、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ等、私達の先頭に立ちミニコンサートを開いて歓迎してくれました。

あっという間の2時間でした。ありがとうございました。

寒禽は懐深き樹に集ふ 京子



### 自然の観察



・ 当会理事の畑中 嘉輔さんが、2013年2月にご逝去されました。会費納入については、会計担当の畑中さんのご逝去により、現在の納入先口座が使用できなくなりましたので、会費は新しい納入先口座の連絡を待つて納入願います。

・ 本会報に毎回、ウオッチングレポートを書いてくださる苫小牧市の谷口勇五郎さんが各種協議会、自然関係団体等に関わる中で、ある自然情報紙に9年間に渡って寄稿していた内容を50編ほどにまとめた小冊子『自然の観察』(左写真)をこのほど自主出版されました。退職して13年にもなるそうでその記念誌という意味を込めて作成されたそうです。「植物・動物などのエッセイ風の自然ガイド」だそうです。自然観察や自然ガイドをしながらの思いや行動の記録がつづられており、会員の皆様方にとっても興味のある、また参考になる話が満載されております。希望者には実費提供(300円)されるとのことですので、直接谷口さんにご連絡願います。

〒053-0831 苫小牧市豊川町3丁目2-12 TEL/fax 0144-73-8912

### 【連絡先】

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 前任者死去により現在、新口座開設検討中

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail [streamy@estate.ocn.ne.jp](mailto:streamy@estate.ocn.ne.jp)

観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail [seichi.y@jcom.home.ne.jp](mailto:seichi.y@jcom.home.ne.jp)

退会、住所変更の連絡は 事務局 横山 武彦 江別市大麻中町21-1

Fax 011-387-4960

事故発生等緊急時は  アスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30 TEL 011-694-5907

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2013年3月15日 / 第105号 年4回発行  
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれて)

発行 北海道自然観察協議会

自然観察 105号(16)